

第1回「弥富市地域公共交通活性化協議会」 議事録

日時：平成26年6月20日（金）

午後2時から

場所：市民ホール（弥富市役所隣3階）

○議 事

1.開会

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ今から、平成26年度 第1回弥富市地域公共交通活性化協議会を開催する。 ・私、今回の進行役を務めさせていただく、公益財団法人豊田都市交通研究所の山崎である。 ・今年度初めての協議会で新しいメンバーの方もいらっしゃる。後ほど事務局からご紹介させていただく。
------	--

2. 弥富市長挨拶

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に、服部弥富市長よりご挨拶をいただく。
服部市長	<ul style="list-style-type: none"> ・大変お忙しい中、第1回弥富市地域公共交通活性化協議会にご出席いただき感謝する。平素は皆様方、それぞれの立場で行政に対して、大変なご協力とお力添えをいただいていることをお礼申し上げる。 ・コミュニティバスも、明日6月21日で4年が経過する。この間、座長を務めていただいた山崎先生には大変お世話になり、お礼申し上げます。 ・いろんな課題があることは皆さんご承知かと思うが、バスの運行の効率化、そして利用者の拡大が一番大きな課題でもあり、皆様方の力添えをいただいて改善を図っていきたい。 ・本日は、平成25年度の決算報告などの議題である。 ・平成26年度最初の協議会であり、新たに委員になられた方もいらっしゃるの、慎重なご審議を賜りたいと思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・議題に入る前に、資料の確認と今年度から新しく委員になられた方の紹介と協議会規約についての説明を事務局より願います。
事務局 (橋村課長)	<p>○弥富市防災安全課の橋村課長、自己紹介○資料の確認</p> <p>会議次第</p> <p>資料1：弥富市地域公共交通活性化協議会委員名簿</p> <p>資料2：平成25年度弥富市地域公共交通活性化協議会決算書</p> <p>資料3：平成27年度生活交通ネットワーク計画（案）</p> <p>資料4：利用者実態調査について</p> <p>資料5：モニタリング調査について</p> <p>資料6：無料お試し乗車券について</p> <p>参考資料：弥富市地域公共交通活性化協議会規約</p>

	<p>参考資料：平成26年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算 配席表（追加資料） 資料訂正：参考資料「事業計画」P4 上部点線で囲まれた説明2行目 誤）虚偽回 → 正）協議会</p> <p>○新委員の紹介 委員名簿（資料1） 【区長会長】 加賀 健二（かが けんじ） 様 【女性の会代表】 伊藤 恵美子（いとう えみこ） 様 【国土交通省 中部運輸局 愛知運輸支局 首席運輸企画専門官】 後藤 英丸（ごとう ひでまる） 様 本日は、代理で 安藤 様ご出席。 【名古屋タクシー協会 専務理事】 多田 直紀（ただ なおき） 様 【飛島村 総務部長】 貝沼 朗史（かいぬま あきひさ） 様 【木曾岬町 危機管理課長】 長谷川 茂（はせがわ しげる） 様</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新委員の方には、委任状をお渡ししているが、本日より平成27年3月31日までの任期で委員として、ご協力願います。 ・今回の協議会より市議会議長さんが委員を辞退されたことを報告する。 ・本協議会規約について、参考資料をご覧ください。規約の条項改正はないが、5ページの別表を資料1の委員名簿に合わせる変更をする。
--	---

3.議題

(1) 平成25年度決算報告について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・議題（1）平成25年度決算報告について、事務局より資料の説明をお願いします。
事務局 （横江）	<p>○資料2「平成25年度弥富市地域公共交通活性化協議会決算書」説明</p> <p>1. 決算書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度弥富市地域公共交通活性化協議会決算について資料2を基にご報告する。 ・まず1ページ目の決算書について、 （歳入について説明） （歳出について説明） <p>2.事業費 1. 1事業推進費 運行事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2ページ目のバス運行事業費について、委託契約額96,605,800円、運賃収入等が4,697,562円、委託契約額から運賃収入等を差引いた91,908,238円となっている。 ・参考資料の事業計画の3ページに、昨年度の第4回協議会で承認頂いた平成26年度協議会予算を付けている。 ・平成25年度の決算書と比較していただくと分かりやすいが、歳入において、平成25年度の決算書では、「地域公共交通確保維持改善事業費補助金」は、2国庫支出金、歳出の1総務費の諸費に入れている。 ・一方、平成26年度予算では、4諸収入に移動する修正をしている。 ・これは、昨年度の協議会での指摘を受けての対応となっている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料の4ページ目を見ていただくと、以前の補助金等の流れとしては、上側の図にあるように、国からの補助金は協議会にだされていたため協議会の歳入として「国庫支出金」という項目を設けて処理していた。 ・しかし、現在は、補助制度変更により下側の図にあるように、国の補助は運行事業者への補助に変わっている。 ・補助金相当額を運行事業者から協議会へ運行委託費の精算として、協議会から市に負担金を精算する流れとなるので、協議会にとっては、「国庫支出金」としての歳入ではなく、諸収入として処理するのが妥当ということで修正している。 ・また、最後のページには、きんちゃんバスのこれまで運行経費について年度ごとに整理している。 ・毎年、運行の効率化を図っていることにより運行経費は減少し、一方で一番右列にあるように年間利用者数が増加していることにより、収支率もわずかではあるが改善している。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・監査結果について、監事の加賀区長会長さんより報告いただく。
監事 (加賀区長会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・監事を代表して、監査結果についてご報告する。 ・弥富市地域公共交通活性化協議会事務局より提出された平成25年度弥富市地域公共交通活性化協議会決算について、諸帳簿及びその証拠書類を監査した結果、いずれも適正に執行され、決算額に誤りはないものと認められることをご報告する。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度決算報告について、ご意見、ご質問等あればお願いします。
加藤委員 (福寿会)	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から、三重交通さんに補助金が直接支払われて、経費からは精算するという話があった。当然、事業実績に基づいた補助になっていると思うが、そこを切り離れた形であるのか、すべて実施報告書をつけてそのお金が補助金として業者に直接いくということか。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> ・弥富市のコミュニティバスの運行について、国に補助の申請をさせていただき、バスの運行事業に対する補助を協議会補助ではなく、運行事業者さんに対して補助をいただく形であるが、私どものバスの運行事業の分についての補助という形になる。 ・補助対象というのが、協議会（弥富市）という委託者ではなく、運行事業者に対する補助という制度になっている。内容については、バスの運行に対する補助という形になっている。
加藤委員 (福寿会)	<ul style="list-style-type: none"> ・了解である。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・弥富の場合は、協議会の事業として、三重交通に委託してバスを走らせている。 ・平成25年度決算報告について、ご審議いただきたい。 ・ご承認いただけるか。
委員一同	(異議なし)《承認》
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の決算報告は承認された。

3.議題

(2) 平成27年度生活交通ネットワーク計画（案）について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・議題（2）平成27年度生活交通ネットワーク計画（案）について、事務局より資料の説明をお願いします。
事務局 (横江)	<p>○資料3「平成27年度生活交通ネットワーク計画（案）について」説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度生活交通ネットワーク計画（案）について資料3を基に説明する。 ・生活交通ネットワーク計画には、様々な添付様式・資料があるが、ここでは、生活交通ネットワーク計画の計画部分と、計画の後ろに、表1「地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者」として平成27年度から29年度までの3か年分を提示する。 ・「0. 生活交通ネットワーク計画の名称」は「弥富市生活交通ネットワーク計画」とする。 ・「1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性」は、弥富市における公共交通の現状と、これまでの取組みの経緯を踏まえ、今後も市内バス運行の改善・充実、高齢者等の移動制約者の交通手段の確保という目的のため、地域公共交通確保維持事業により地域内フィーダー系統のコミュニティバスを運行し、市内の公共交通サービスを維持し、市民生活の交通手段を確保し続けていくことが必要としている。 ・次に「2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果」として、事業の目標では、2つの目標を掲げている。 ・1つ目は「総合的満足度の向上」として、平成25年度にも実施した利用者アンケートにおける総合的満足度の評価を上回る結果を得ることを目標としている。 ・2つ目は「1便当たり乗車人員の向上」として、平成25年度における実績を上回る乗車人員を確保することを目標としている。 ・「事業の効果」としては、満足度及び1便当たり乗車人員数の向上により、コミュニティバスの運行を維持することが可能となり、高齢者等の通院や買い物等の市民の日常生活に必要な移動手段が確保され、高齢者等の外出が促進される。また、市内鉄道との接続により、名古屋方面を始めとした通勤・通学や買い物に対応する公共交通ネットワークを構築することができ、クルマに過度に依存しない社会の構築にも繋がるとしている。 ・「3. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者」について、現在の系統の概要を表1にて3か年分を整理し、時刻、運行事業者の決定方法について記載している。 ・「4. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額」、「7. 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要」については、所定の様式に従い、別途整理しているが、ここでは詳細な説明を割愛させていただく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・5、6及び8～10番の項目については、弥富市は「該当なし」。 ・「11. 協議会の開催状況と主な議論」として、平成25年度の協議会開催状況と、今回の協議会開催について記載している。 ・「12. 利用者等の意見の反映」については、協議会構成員に住民又は利用者の代表が参加していることや、利用者アンケートを実施した上で、改善策を検討協議していることを記載している。 ・「13. 協議会メンバーの構成」として本協議会の構成員を記載している。 ・なお、本資料には記載がないが、今年度よりネットワーク計画記載事項が追加され「補助金の交付を受けようとする補助対象事業者の名称」を記載する必要があり、愛知運輸支局さんへ提出する計画には、補助対象事業者の名称を追加させていただく。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度生活交通ネットワーク計画(案)について、ご意見、ご質問等あればお願いする。
加賀委員 (区長会)	<ul style="list-style-type: none"> ・今回初めてこの会に出席して、今ひとつわからないことがある。 ・1ページの飛島公共バス、木曾岬自主運行バスとの連携…と書いてあるが、実際、現在は連携されているのか。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの運行開始以来、連携については検討しており、今現在、飛島公共交通バスが市内に2か所のバス停がある。東部ルート、十四山地内に2か所、私どものコミュニティバスのバス停と2つ並んだバス停があり、昨年10月に時間を調整しており、乗り継ぎができる状況になっている。そちらの地区から近鉄蟹江駅に出られる方への乗り継ぎは、現在行っている。 ・さらに周辺自治体のコミュニティバスの木曾岬自主運行バスと飛島公共交通バスとの連携もまた検討していく。
加賀委員 (区長会)	<ul style="list-style-type: none"> ・民間的な考え方からすると、実際に木曾岬も飛島の方も海南病院へ通院されている方が結構みえると思う。バスをこちらまで持ってきたり、あるいは弥富のきんちゃんバスを動かすことによって、相互乗り入れが法的にできるかどうかかわからないが、そういうことも含めて考えていけば経費も節約できるし、なおかつ利用者の方も有効に利用できる。 ・木曾岬も弥富と陸続きであるし、通勤・通学で弥富駅に向かう方もたくさんみえると思うので、総合的に考えられたらもっと有効に運用できると思う。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局として、大変参考な意見である。 ・現在、バス運行として、地域に住んでみえる方については利便性がある一番良い状況であるが、現在、バス運行についてはそれぞれの自治体が主体となって運行しており、こちらが広域的に連携して体制がとれば、区長会さんがおっしゃられたような相互乗り入れで利便性を図っていきたいと思うが、今はそこまで連携できている状況ではない。それぞれの自治体が主体となってバス運行している。今後の課題になっていくかと思うが、含めて検討できればと思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・おっしゃられることは、この協議会で進めていかなければいけないと言い続けてきたが、やれることからやっ払いこう、周辺地域と連携してい

	<p>くべきということもあるので、飛島村さん、木曾岬さんとも連携して検討していただきたいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他によろしいか。
多田委員 (名古屋タクシー協会)	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の協議会から参加をさせていただくことになった。 ・今のことに関係することとして、資料3の1ページの上から3つ目のぼつの中に3行目、22年3月に連携計画を策定し事業をしてきたという項目があるが、この連携計画そのものが今現在どういう状況になっているのかということ、他の委員の皆様方のご存知かもしれないが、初めて参加させていただいたので、少し確認をさせていただきたい。 ・後ほど事務局からご説明いただけるかと思うが、参考資料の事業計画が添付されている。この中で交通網形成計画を策定と書いてあるが、おそらくここは密接な関係があると考えているが、いずれにしても、この地域の交通体系をどうしていくのかということが、加賀委員さんの質問の趣旨ではないのか。それには、弥富市だけでは当然できない部分もあって、広域で運行されている鉄道や三重交通バス、また隣の市町村との連携を考えていくと、弥富市単独で検討することではなく、周辺市町との連携が非常に重要になってくる。そういう方向で今後の取り組みを進めていただきたいと思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局、願います。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> ・連携計画だが、平成22年に弥富市地域公共交通総合連携計画を策定し、事業計画としては3年で進めていた。その計画は引き続き目標に向けて事業を進めてもらっている。 ・事業計画でお話のあった地域公共交通網形成計画だが、連携計画について昨年度も見直しを検討していたが、国の法律の一部改正があり、そちらに対応すべく今年度、地域公共交通網形成計画の策定をおこない、まちづくりと一体となった計画を策定して事業を進めていくことを検討している。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局側としては、連携計画を執行しているので新たな計画として、これは決して補助金をもらうための計画ではなく、地域の公共交通、弥富、それから周辺市町も含めて公共交通をどうしていくのかを一緒に考えようということで、26年度の事業として形成計画の策定を挙げているということによろしいか。 ・平成27年度生活交通ネットワーク計画に関しまして、ご審議いただきたい。細かいところは事務局で修正したり、運輸支局さんからの指導に沿って進めていく。 ・平成27年度生活交通ネットワーク計画にご承認いただけるか。
委員一同	(異議なし)《承認》
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局で手続きを進めていただきたい。

3.議題

(3) 利用者実態調査について (4) モニタリング調査について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・議題 (3) 利用者実態調査 (4) モニタリング調査について、事務局より
------	--

	説明をお願いします。
事務局 (横江)	<p>○資料4・5「利用者実態調査・モニタリング調査について」説明</p> <p>資料4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者実態調査について資料4を基に説明する。 ・生活交通ネットワーク計画策定のための基礎調査の1つとして、利用者特性等を把握するための利用者実態調査（乗車人員調査・OD調査）を実施する。 ・利用者実態調査として、昨年度同様に「乗車人員調査」「OD調査」の2つの調査を考えている。 ・「乗車人員調査」については、運行期間中、毎日、乗車人数を調査する。 ・「OD調査」については、7月上旬に1週間ほど期間を設ける。 ・参考に、実証運行開始から平成26年3月までの乗車人員の推移を整理した。 ・緑色の線が平成22年度、青色の線が平成23年度、ピンク色の線が平成24年度、赤色の線が平成25年度の値となっている。 ・年度を追うごとに堅調に乗車人員が増加しており、平成22年度の総乗車人員は48,845人、平成23年度には66,242人、平成24年度には68,798人、平成25年度には69,857人となっている。 ・2ページ目にはルート別に乗車人員の推移を示している。 ・また、3ページ目にはルート別、年度別に一日平均乗車人員と一便あたり平均乗車人員を示している。 ・これを見ると、全体としては一日平均乗車人員、一便あたり平均乗車人員ともに前年度よりも増加していることが分かると思う。 <p>資料5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度もモニタリング調査として、利用者を対象としたアンケート調査を実施する。 ・きんちゃんバス利用者500名に配布数する予定。 ・実施時期としましては、7月中旬ごろに実施する予定。 ・内容は、次のページより整理している。 ・「きんちゃんバスに関するアンケート調査、ご協力をお願いします！」と書いてある、裏表1枚が頭紙となっており、裏面に、啓発や利用促進を兼ねて、お得な情報などを記載している。 ・また、この紙は対象者の手元に残るように、アンケート票とは別に分けて印刷する。 ・次のページからがアンケートの内容となっている。 ・アンケートは4ページものとし、問1～11までの設問で構成している。 ・1ページ目では問1で対象者の属性を把握する。 ・1-4「お住まい」の設問について、運輸局の安藤さまよりご指摘を受け、市外からの利用者への回答欄として「9.その他」を追加したい。 ・1-5には今後市役所の仮庁舎への移転も計画されていることから、市役

	<p>所本庁舎の利用頻度も把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問2で利用ルート、問3で利用頻度、次のページに移り、問4で割引制度の利用状況、問5では利用目的を把握する。 ・問6では、きんちゃんバスの満足度を把握する設問となっており、不満という方には、その理由を書いていただく。 ・問7では、サイクル&バスライド駐輪場の認知度や利用状況、次のページに移り、問8では、きんちゃんバスを利用した外出頻度の変化について把握する。 ・この問8の設問においては、先に把握した属性のうちの年齢から、高齢者の外出頻度の変化を特に把握したいと考えている。 ・問9では、東部ルートを利用している方を対象に、10月のダイヤ改正により、蟹江線との乗り継ぎを改善したことについての評価を把握する。 ・問10では自宅とバス停との距離関係を、次のページの間11では市の費用負担と利便性の関係の意向について把握する。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ今ご説明いただいた、「利用者実態調査・モニタリング調査」について、ご意見、ご質問があれば、いただきたい。
青木委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査対象者の500人はどのような方法で選ぶのか。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年までは、市民アンケートという無作為な形で調査を実施していたが、今回は利用者アンケートということで、バスに乗車いただいた方について、バスの運転手さん（三重交通さん）にご協力いただき配布し、ご回答後回収としたい。ご利用いただいた方に配布するという事を考えている。
加賀委員 (区長会)	<ul style="list-style-type: none"> ・問1-5に市役所を訪れる頻度があるが、病院を入れていないのはなぜか。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> ・問5の主な利用目的のところ、私どものバスがどういう目的で使われているかについて聞いている。今回は、昨年までのアンケートと違った部分、先のことではあるが仮庁舎への移転がある。移転する際に、市役所の機能が仮庁舎に移る部分があり、市役所にバスをご利用いただける方があるかということの特に関心があるので、問1-5に追加させていただいた。 ・利用目的については、問5でご回答いただいて、検討・検証したいと考えている。
加賀委員 (区長会)	<ul style="list-style-type: none"> ・それは、あくまで市の考えであって、利用される方の意見を聴取したいと思う。私は市役所より、年を取った時に自分で車を運転できなくなり、病院へ行くのにバスを利用するわけなので、1か所増やしてもいいのではないかと思うが、問題があるのか。
服部市長	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀さんのご意見はごもっともである。 ・庁舎の建て替えが前提で、仮庁舎の計画が27年度ぐらいいったので、そういう項目が入ったという説明である。今一度、問1-5と問5のところで少し精査したほうがいい。例えば、庁舎や病院であったり、主だっ

	たところの場所に対してどう利用していくかということを、問1-5の中で聞いた方がいいのかなと思う。一度、検討していただきたい。
事務局 (横江)	・検討させていただく。
山崎議長	・問1-5で聞きたいのは、今の説明だとバスで行くという状況を聞いている。車で行かれる方もあるかと思うので、明記する必要がある。
福田委員 (民生委員)	・病院もいいが福祉センターやコミュニティ等を訪れる頻度の設問もあるといいと思う。高齢者はよくバスで福祉センターにも行く。
事務局 (横江)	・アンケートでは主な目的についてしか設問を作っていないが、個々のバス停の利用については、利用者実態調査のOD調査がある。どこで乗車して、どこで降りるかという乗車バス停・降車バス停を調査する。バス停留所の中で病院や福祉センターなど、どのぐらいの利用があるかについてはそこで把握しようと思っている。 ・このアンケートでは、主な目的としか聞いていないが、個々の利用についてはOD調査で把握しようと考えている。
山崎議長	・事務局の代弁をすると、問1はあくまで庁舎の建て替えのために市役所機能がどこか他のところに一時的に移る。バスが市役所を通るのは、市役所の本庁舎にバスで来る人がいるだろうということでバスがある。もし、市役所の機能が他の場所に移ったとしたら、市役所に来る人のためにバスの路線をそこに変えないといけな。そこまでやる必要があるのか、あるいは、市役所のバス停で降りる人は、実は市役所ではなく海南病院やスーパー等に行くのかを知りたいというのが事務局の意図である。 ・実際にバスで市役所に来る人がそれほどいないのであれば、やり方を本線のルートを変えるのではなくて、別の方法を考えるバックデータとしてこういう設問を設けている。ある課題に特化した設問である。 ・そこも含めてご意見を、お伺いしたいと思う。
多田委員 (名古屋タクシー協会)	・先生のおっしゃったことにも関係すると思うが、事務局から昨年、市民アンケートをおやりになったという話があった。今回は、バスの利用者500人をということだが、要するに、アンケートの目的は何であるのかということが、今の市役所の庁舎の建て替えの問題だとかいろんなものを含んでいるためにアンケートの目的がぼやけてしまっていると思う。 ・市民アンケートから利用者アンケートに変えた理由ないし目的というのは、よくわからない部分もあって、先ほどの連携計画の方針であったり、交通網形成計画という話とリンクさせていくと、果たしてきちんとリンクしているのかなというところが疑問に思う。 ・本来ならば、市民アンケートが必要なのかなというのが正直な印象で、最近のきんちゃんバスの運行のあり方をどうしていくのかを全体を見通して考えていくと、おそらくはそういう見方になる。そうではなくて、きんちゃんバスだけの満足度を上げていくということになると、今回のようなアンケートの様になる。先ほどの説明と相容れない部分があるという印象を受けた。

事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> アンケートのご意見をいただいたが、バス運行開始前の平成21年から市民アンケートを毎年実施しており、昨年の10月1日のダイヤ改正を行い、バス運行形態のある程度の改善について一区切りついたという考えがある。 今回は利用者アンケートで利用者の意向についてお聞きし、またダイヤ改正の改善を含めたことを検討する段階においては、市民アンケートを検討していくことになると考えている。
加賀委員 (区長会)	<ul style="list-style-type: none"> 「きんちゃんバスに関するアンケート調査」の頭に「市・仮庁舎…」を付け加えたらすっきりするのではないか。それはまずいのか。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> そこまでの調査ではない。
事務局 (橋村課長)	<ul style="list-style-type: none"> 全体のバス利用者の動向ということを考えているので、その中に庁舎の建て替えの部分も少し入れてアンケートにさせていただければと考えている。 市役所のバス停を使われる方は市役所より病院へ行かれたり、近所のスーパーへ行かれたりという方も結構みえると思う。そちらの方がメインのような気もするので、頭に「市役所…」というところまでは考えていない。
服部市長	<ul style="list-style-type: none"> 加賀委員から貴重なご意見もいただいたが、コミュニティバスにおいては過去4年間、いろんな形で皆さんにアンケートを取りながら現在に至っている状況である。 今回のアンケートについて事務局そして私どものねらいは、利用している人がどのような満足な意見があるのか、あるいは実態としてどういう形の中で利用されているのかということについて調査をすることをご理解いただきたいので、この調査方法で実行させていただきたいと思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 利用実態調査の資料の中に乗車人員の推移が載せてあるが、見ていただくと利用者数は増えている。弥富の協議会に参加させていただいて誇らしいところは、費用を抑えつつ、要は無駄なサービスを削ぎ落としつつも利用者が増えてきているところが立派だと思う。 特にこの件はご承認いただくことではないが、方針としていかがか。今いただいたご意見を反映して、事務局でこの調査内容を作成して、来月進めていただくことでよろしいか。
委員一同	(異議なし)
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 事務局で進めていただく。

3.議題

(5) 無料お試し乗車券について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 議題(5) 無料お試し乗車券について、事務局より説明をお願いする。
事務局 (横江)	<p>○資料6「無料お試し乗車券について」説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 無料お試し乗車券の配布について資料6を基に説明する。 これまで3回にわたり実施し、利用者増の効果が認められた無料お試し乗車券の配布について、今年度も実施したい。 配布対象は昨年度までは市内全世帯だったが、今年度は、それに加え、

	<p>小学生にも配布することを考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これは、利用可能期間を8月1日から30日までの夏休み期間としていることから親子での利用機会も創出することを狙っている。 ・また、お試し無料乗車券は、2枚目についているものがサンプルとなる。 ・啓発を目的とした文言を記載するとともに、無料お試し乗車券の裏面には簡単なアンケートを記載し、回答を無料乗車の利用条件としている。 ・このアンケート結果を集計し、初めて利用した人がどの程度いたのかを把握し、乗車人員の推移と併せて検証することで、無料お試し乗車券の効果を検証することを考えている。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ今ご説明いただいた、無料お試し乗車券について、ご意見、ご質問等あればお願いします。
加賀委員 (区長会)	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどのデータの数字は、無料お試し乗車券の利用者も含まれているのか。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> ・乗車人員の実績は毎月ごと整理しており、年によって「無料お試し乗車券」の配布月が変わっており、実施した月には乗車人員の増加がみられる傾向がある。

3.議題

(6) その他

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・議題(6)その他について、事務局から何かあるか。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> ・特にない。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・最後に何か話したい方、言っておきたいことはあるか。
加藤委員 (福寿会)	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会でも事務局もそうだが、いろいろ苦勞しているの、少しでも効率的な運用をしていただきたい。経費を落として利用者を高めるとするのは一番理想だけれども、そういった形になっているという苦勞はわかる。 ・弥富市が非常に南北に長く、地形的から見ると運用は難しい地形だと思う。その中で、一つの方法だが、市民の皆さんが頭の中に入れてしまえば効率的な運用である。例えば、電車でも普通、準急、特急とあるが、きんちゃんバスも地域の方が知れば、何曜日は海南病院の直行便があるとか、大きなスーパーへの直行便があるという形で市民が覚えてしまえば、そういったことの利用度が高まると思う。中には、特急便を走らせる。どこの家にも冷蔵庫があると思うから、曜日がわかっていればそれに合わせて買い物されると思う。目の向け方も大事だと思う。 ・乗車人員等調査を分析していただいて、どういった形でバスを利用したいという市民の思いを考えると効率も良くなると思う。やってみないとわからないが、よく分析されてそういった方向の目の向け方も大事だと思うので、よろしくお願いします。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から何かあるか。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> ・目的、時間帯、目的地等、各種調査・検証して、すぐに特急便の運行というお約束は難しいが、先々検討していく必要があると考えている。

加賀委員 (区長会)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年の春の芝桜は大成功だった。たまたま、佐古木駅でバスに乗ったら、新聞の切り抜きを持っていた方が「遠いですね」とおっしゃるので伺うと「名古屋から来た」とおっしゃっていた。弥富駅から佐古木経由でバスをしっかりと乗って、さらに佐古木から芝桜の会場までぐるぐる回っていくわけだが、イベントの時はシャトルバスを出されたらいいのではないか。その辺も計画にいただければと思う。
服部市長	<ul style="list-style-type: none"> ・芝桜まつりの会場と駅との連携するシャトルバスについては、芝桜まつりの反省会でもそういう声も出て、せっかく遠くから来ていただいて、交通の便のサービスがあまりにもひどいと私どもも反省している。来年の4月にはそれなりの措置をしていきたいと考えている。
加賀委員 (区長会)	<ul style="list-style-type: none"> ・記事で最寄りの駅を「佐古木駅」としてもらおうといい。
服部市長	<ul style="list-style-type: none"> ・便宜を図っていかねばならないと思う。
多田委員 (名古屋タクシー協会)	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントのバスについて話があったが、バスの必要性については地域の皆さん方で考えていただければと思う。自治体だけで考えていく問題では決してないと思うので、既存のバス事業者さんのご協力がいただけるものは利用し、また私どもの乗り合いタクシーも全国的にイベント対応で運行しているので、どういう形がいいのかということは皆さん方の議論の中で決めていただければと思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに今までは、生活交通として地域の公共交通としての位置付けだけでやってきたが、今お話しがあったように、広域的に名古屋方面からもハイキングなどの観光資源があるとすれば、そこに来る方に対するサービスというのも地域公共交通として協議会で戦略的にゲットしていくのもありかなと思う。
服部市長	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシー協会の方からもぜひということでもあるので、私どもも参考にさせていただきながら、芝桜まつりに来ていただく方々の足の便を考えていきたいと思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・他によろしいか。 ・議題はこれですべてである。 ・事務局から連絡事項はあるか。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> ・次回、第2回「弥富市地域公共交通活性化協議会」は、10月頃を予定している。日程が決まり次第、皆様にご案内させていただくので、よろしく願います。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・以上をもって、第1回弥富市地域公共交通活性化協議会を閉会する。 ・今後とも、皆様方にはご協力をお願いする。
	以上